

原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合（第809回）  
中国電力株式会社に関する指摘内容

令和元年12月11日  
原子力規制庁  
新基準適合性審査チーム

【耐震設計の基本方針】

- V(L L)時の荷重の組合せについて、残留熱代替除去系を使用する場合としない場合の組み合わせの考え方について説明すること。
- 格納容器スプレイを止めた後のサプレッション・プール水位上昇率について、水位計の計器誤差との関係も含めて説明すること。

【有効性評価 霧困気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）】

- 見直し後のサプレッション・プールの注水制限値に対する不確かさ、裕度については、操作遅れや計器誤差及びベント時の体積膨張との関係を整理した上で、制限値の妥当性を説明すること。
- ベントが遅れた場合のCs137の放出量への影響を説明すること。
- サプレッション・プールの水位制限の見直しに伴いベント開始時間が73時間から32時間に早まったが、手順全般の成立性への影響は無いことを説明すること。
- エアロゾル粒子に対するスクラビング効果に関する実験について、実験条件等の詳細を整理して説明すること。
- 損傷した炉心の最外周の温度について、シュラウドへの影響の観点から説明すること。
- ベントの排気ラインと接続口が近接していることを踏まえ、ベント実施時の影響と使用する接続口、アクセスルートの優先順位との関係を説明すること。
- ベント実施時に可搬型重大事故等対処設備の給油作業を実施しない場合について、その理由を整理して説明すること。

- 自主対策設備とした非常用C/C切替盤について、通常運転時の運用及び悪影響防止対策を説明すること。
- 新たに設置されるS A所内電源設備のL/C及びC/Cの水密区画化について説明すること。

**【格納容器の限界温度・圧力に関する評価結果】**

- ガasketを増厚することによりフランジの据付状態が変化することが考えられるので、フランジの据付状態、ボルトのトルク管理等に対する影響について詳細設計段階で説明すること。

以上